

# 佐伯鶴城新聞



第9号  
編集所 立城校部  
分伯鶴学 大佐高等 新  
編集責任者 松下秀春  
編集下松工

遂に開幕

# 最高の笑顔で終わる

## 苦しい練習を「勝利」への糧に



いま、「優勝」に向かって走り出す(陸上)

今年も大分県高等学校総合体育大会(県総体)が本日開幕した。六十一回を迎えるこの大会は、本校からは十六部が出場する。県総体では、技術や体力の他にチームワークも試される。練習の成果を最大限発揮し、勝利を信じてベストを尽くしてほしい。練習しているのか各部主将に話してもらった。

## 「強くなりたい」「思いを胸に

### 自分の目標を達成する

陸上部では、県総体に向けた練習メニューを自分たちで考え、それに取り組んでいる。男子主将の川野智仁さん

(三十四)は「自分自身が強くなりたいという思いを胸に、総合優勝を目指して練習に取り組んでいきたい」と話した。

女子主将の宇高志織さん(三十四)は「自分の目標を達成し、県総体ではベストを尽くし、楽しいと思える試合をしたい」と語った。

## 全員で声を出す 個人記録の更新を目指す

「全員で声を出してチームを盛り上げる」。水泳部では練習の際に全員でしっかりと声を出しチーム全体の雰囲気を取り上げ、日々の練習を重ねている。

主将の佐藤大樹さん(三十一)は「男女とも団体での総合優勝を目指す。県総体では全員が自己記録を更新し、九州大会を目指したい」と話してくれた。



「総合優勝」を目指し泳ぎ切る(水泳)

## 仲間への感謝

### 積み重ねを出し切る

「会場で緊張しないように楽しく声を出している」と話してくれたのは、空手道部主将・仁部屋和真さん(三十四)。

今大会では、男女共に団体で3位入賞、個人でベスト8を目指す。

「二年弱の積み重ねを、すべて出し切れる様な試合をしたい」と続ける。

さらに「長い間指導してくださった先生や今までついてきてくれた仲間に、自分の出せる最大限の力を出した試合を見せたい」と話す。最後に全校生徒に一言、



最大限の力を出し切る(空手道)

## チームワークが大切

絶対には悔いを残さない。剣道部はチームワークを大切に、日々の練習に取り組んでいる。

男子主将の大崎龍成さん(三十一)は「悔いの残らない試合をしたい。目標は団体で一回戦突破、個人でベスト8以上」と語った。女子主将の工藤梨央さん(三十一)は「二回戦突破



気迫で圧倒(剣道)

## 練習のよもぎ

他校との試合を想定して、その日の目標を決め練習に取り組む弓道部。

男子主将の植田大樹さん(三十一)は「練習と同様、集中して引き、男子団体・個人ともに優勝したい」と話す。

女子主将の清家千萌さん(三十一)は「目標は団体優勝と個人での決勝進出。一試合、一試合を大切にしたい、悔いがないようにしたい」と話した。



試合を想定して引く(弓道)

## 優勝旗を贈りたい

体操部は、団体・優勝、個人・全員上位入賞を目標にしている。

練習では、調子が悪くても一人の世界に入らず、周りを気にするように努めている。

部長の川辺さやかさん(三十四)は「三年生にとって最後の県総体。悔しい思いをせずに笑顔で最高の形を迎えたい」と話す。最後に「お世話になった押田武先生に、団体優勝旗をプレゼントしたい」と話した。